



「拓け未来の新潟 第19回教育フォーラム」を開催しました

令和8年1月23日(金)に開催した「拓け未来の新潟 第19回教育フォーラム」には、700人を超える方からお申し込みをいただきました。以下に、その内容や、参加者からの声を御紹介します。申し込みをされた方は3月末まで御視聴いただけます。追加で視聴したいという御希望がありましたら、教育研究班(025-263-9028)に御連絡ください。

基調講演

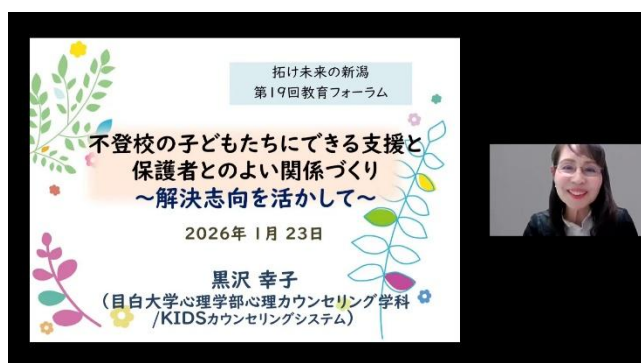
演題 「不登校の子どもたちにできる支援と保護者とのよい関係づくり ～解決志向を活かして～」

講師 目白大学心理学部心理カウンセリング学科特任教授 黒沢 幸子 様

本講演では、問題や原因探しではなく、リソース(できていること、強み)や望む解決の姿に焦点をあて、ともに未来に役立つ一歩を見出していく「解決志向アプローチ」の発想と技法を活かした子どもたちへの支援や保護者との関係づくりについて、事例やワークシートなどをあわせて御紹介いただきました。黒沢様が明るくお話しされる姿からも、解決志向アプローチの、いきいきとした豊かな関わり方を学ぶことができました。

講演スライド(一部)

参加者の声



問題や原因を特定するより、解決について考えていく方法として、対話をする際に効果的な質問をご教示いただきました。本人や保護者を承認し信頼関係を築く上でいい方法だと感じました。とても良い講演でした。(50代 高等学校教員)

テーマは不登校の子供たちへの支援でしたが、解決思考アプローチは、他の様々な場面でも活用することができる内容であったと思います。事例やワークシートを示しながらお話くださったことで、具体がイメージできて、とてもよかったです。

(40代 行政職員)

不登校児童だけでなく、様々な問題を抱える児童にも、活用できる関わり方だと思いました。黒沢先生の温かく明るい言葉や声に来週からまたやってみようという前向きになれる勉強になる研修時間になりました。(30代 小学校教員)

望んでいる未来・解決の姿・変化を聞く質問

- 少しずつどんなことが変わるといいですか?
- その代わりになんてなるといいのでしょうか?
- 少しずつどんな違いが生まれればいいですか?
- どうなりたいと思いますか?
- どうなってほしいですか?
- もっとも望んでいることはどんなことですか?
- 困っていることが無くなるとうなりますか?
- ベストな(最高の)1日はどう過ごしているのでしょうか?
⇒それが、例外的、部分的に起きていませんか?
(聞くとき意外に出てくるもの)

令和の日本型学校教育では、子供たちの学び（授業観・学習観）の転換が求められています。と同時に、教師自身の学び（研修観）をアップデートしていくことも求められています。本プロジェクトチームは、この『教師自身の学び（研修観）の転換』に焦点を当てて調査・研究を行いました。

本分科会では、山梨大学 准教授 三井 一希 様が講義「個別最適な学びと協働的な学びを実現するICTを活用した授業づくり」でお話しされた理論や授業実践のポイントをもとに、小・中・高等学校での「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業実践の様子及びインタビューを紹介し、取材を通して見てきた「新たな教師の学びの姿」に迫りました。

▶ 今、求められる「学びの姿」とは

現在の学校教育では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「**主体的・対話的で深い学び**」を実現することが求められています。ICTを基盤的なツールとして活用することで、子供たち一人ひとりの特性に合わせた学習や、時間・空間を超えた多様な人との協働が可能になります。

🏠 協力校3校による授業実践

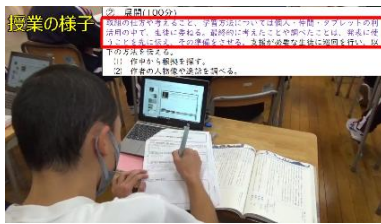
五泉市立大蒲原小学校(算数)

タブレット上で図形を操作し、多様な解き方を模索しました。



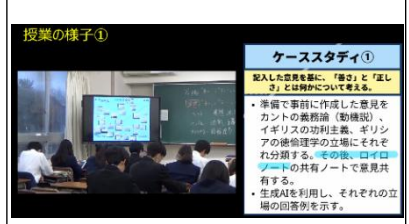
佐渡市立相川中学校(国語)

『走れメロス』を題材に、中心人物の人物像について考察しました。



県立新潟江南高等学校(公共)

「『善さ』と『正しさ』とは何か。」という正解のない問いに向き合いました。

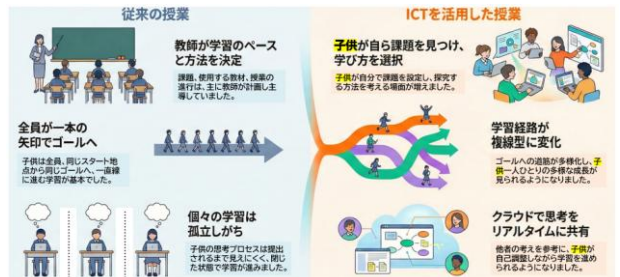


授業改善に向けた「8つの視点」

- 1 「教師が主導する授業」への自覚
- 2 自身に向けた「問い」
- 3 授業観の転換
- 4 子供が主役の授業づくり
- 5 教師の役割の変化
- 6 学びの自己調整
- 7 ICT活用による学びの可視化
- 8 「学び続ける教師」



分析結果のイメージ



参加者の声

視聴後に「やってみたい」と前向きになれる内容でした。
(30代 小学校教員)

授業改善のイメージが非常に分かりやすく示されており、大変参考になりました。学校全体として、同じ方向を向いて研鑽に努めたいと思います。
(50代 小学校教員)

「個別最適な学び」「協働的な学び」について、いろいろな授業公開で実践が行われていますが、今までの中で一番わかりやすく、いろいろな人が見るべき動画であったと思います。
(50代 行政職員)

🌟 おわりに

これまでの「全員一律の学び」から、子供たちが多様なルートでゴールを目指し、教師がそれを支える「**個別最適な学び**」へ。「**教師の学びを子どもの未来へ**」つなげるために、皆さんも新たな一歩を踏み出してみませんか。

まだ参加されていない方は、追加のお申込みをいただき、ぜひ御視聴ください。

本プロジェクトチームでは、令和6年度に教育庁総務課が行った「新潟県学校教育情報化推進行動計画に係る教員向けアンケートの実施結果」を基に、「児童生徒の情報活用能力を育成するカリキュラム・マネジメント」をテーマに調査・研究を行いました。本分科会では、動画を3つの構成に分けて配信しています。

配信動画の内容

動画①【全体説明】

- ・情報活用能力とは
- ・テーマ設定の理由
- ・情報活用能力チェックリスト

動画②【協力校の実践紹介】

- ・加茂市立加茂南小学校
- ・加茂市立若宮中学校
- ・県立新津高等学校

動画③【指導・講評】

- ・文部科学省初等中等教育局 学校情報基盤・教材課長 寺島史朗 様

各学校における取組の様子

【加茂南小学校】



【若宮中学校】



【新津高等学校】



寺島課長からのご指導のポイント

- ①操作技能中心から脱却する
「使えるか」ではなく「なぜ・どう使うか」を問う学習へ転換する。
- ②学習プロセス全体に位置付ける
課題設定から振り返りまで、一連の学習活動の中で継続的に育成する。
- ③系統性・教科横断で育てる
学年・教科ごとの役割を整理し、単発で終わらせない設計を行う。
- ④評価と一体で育成する
見取りの視点を共有し、児童生徒の振り返りを通して力を定着させる。

参加者の声

一部の職員だけが頑張るより、学校全体として同じ方向を向いて研鑽することが重要であり、近道なのだなと痛感しました。
(50代 小学校教員)

目指すべき授業の姿、そのために有効なICT活用が分かりました。研鑽を積んでいく意欲が高まりました。
(50代 中学校教員)

情報活用能力の育成に取り組まれている小・中・高等学校の実践が大変参考になりました。その実践に対して文科省の寺島課長が示してくださった今後への視点も、大変参考になりました。また、情報活用能力の向上に向けた最新の情報についても、現在の議論の流れを確認するよい機会となりました。
(40代 行政職員)